

(参考1)

1. 平成18年3月31日現在のPCB廃棄物の保管等の状況

参考表－1 PCB廃棄物の保管状況

| 廃棄物の種類 | 保管事業所数 | 保管量 |
|-----------|--------|------------|
| 高圧トランス | 4,214 | 24,154台 |
| 高圧コンデンサ | 49,815 | 267,004台 |
| 低圧トランス | 625 | 59,002台 |
| 低圧コンデンサ | 3,863 | 1,932,470台 |
| 柱上トランス | 206 | 2,292,734台 |
| 安定器 | 14,148 | 5,765,706個 |
| P C B | 264 | 61トﾝ |
| P C Bを含む油 | 1,727 | 178,545トﾝ |
| 感圧複写紙 | 404 | 658トﾝ |
| ウエス | 1,279 | 337トﾝ |
| 汚泥 | 231 | 23,067トﾝ |
| その他の機器等 | 4,214 | 263,445台 |

参考表－2 PCB廃棄物を保管する事業所におけるPCB使用製品の usage 状況

| 製品の種類 | 使用事業所数 | 使用量 |
|-----------|--------|------------|
| 高圧トランス | 1,378 | 6,898台 |
| 高圧コンデンサ | 7,191 | 25,606台 |
| 低圧トランス | 97 | 48,729台 |
| 低圧コンデンサ | 247 | 32,626台 |
| 柱上トランス | 16 | 1,496,321台 |
| 安定器 | 1,563 | 357,737個 |
| P C B | 25 | 81kg |
| P C Bを含む油 | 16 | 553kg |
| その他の機器等 | 1,929 | 12,644台 |

2. 平成19年3月31日現在のPCB廃棄物の保管等の状況

参考表－3 PCB廃棄物の保管状況

| 廃棄物の種類 | 保管事業所数 | 保管量 |
|------------|--------|------------|
| 高圧トランス | 5,344 | 29,118台 |
| 高圧コンデンサ | 51,299 | 272,178台 |
| 低圧トランス | 927 | 45,635台 |
| 低圧コンデンサ | 3,900 | 1,904,680台 |
| 柱上トランス | 228 | 2,531,859台 |
| 安定器 | 14,730 | 5,970,239個 |
| P C B | 284 | 40トﾝ |
| P C B を含む油 | 2,086 | 149,116トﾝ |
| 感圧複写紙 | 391 | 711トﾝ |
| ウエス | 1,497 | 423トﾝ |
| 汚泥 | 274 | 22,713トﾝ |
| その他の機器等 | 4,757 | 227,400台 |

参考表－4 PCB廃棄物を保管する事業所におけるPCB使用製品の使用状況

| 製品の種類 | 使用事業所数 | 使用量 |
|------------|--------|------------|
| 高圧トランス | 1,752 | 8,358台 |
| 高圧コンデンサ | 6,688 | 23,275台 |
| 低圧トランス | 117 | 54,827台 |
| 低圧コンデンサ | 242 | 28,242台 |
| 柱上トランス | 23 | 1,324,247台 |
| 安定器 | 1,570 | 322,811個 |
| P C B | 26 | 170kg |
| P C B を含む油 | 18 | 3,418kg |
| その他の機器等 | 1,990 | 12,642台 |

参考表－1から参考表－4までにおいて、ドラム缶等各種容器にまとめて保管又は使用している場合など、トランス等（高圧トランス、高圧コンデンサ、低圧トランス、低圧コンデンサ、柱上トランス、安定器、その他の機器等）が台数又は個数で計上できないもの、PCB等（PCB、PCBを含む油、感圧複写紙、ウエス、汚泥）が重量や体積で計上できないものについては、事業所数のみ計上した。

なお、PCB等については、重量又は体積で計上されたもののうち、体積で計上された分については、1 L = 1 kgとして重量に換算して集計した。

微量P C B汚染廃電気機器等はその他の機器等に含まれている。

(参考2)

※PCB廃棄物の保管量等の主な変動要因

○保管量については、主に以下の増加・減少要因が考えられる。

(増加要因)

- ・保管されている廃棄物が新たに把握されたため。
- ・使用を終えた製品が廃棄物となり保管されたため。
- ・廃棄物の種類が変更されたため。

(減少要因)

- ・処分（処理）が進んだため。
- ・廃棄物の種類が変更されたため。

○使用量については、主に以下の増加・減少要因が考えられる。

(増加要因)

- ・使用されている機器が新たに把握されたため。
- ・使用している機器の種類が変更されたため。

(減少要因)

- ・機器の使用を終えたため。
- ・使用している機器の種類が変更されたため。